

ユージ 斧に気をつけろ

伊藤祐二

音楽の世界は、いよいよ厳しい。いったいどれだけの企画が中止、延期になったか、想像もつかない。

村田厚生トロンボーンソロリサイタル

「Prestop」 2021年3月24日 杉並公会堂

小ホール

延期の上、開演。グロボカール、牛島安希子、一ノ瀬響、池田拓実、村田厚生作品。今回は、ライブエレクトロニクス、特に奏者が装着したモーションセンサーにより、奏者の身振り、動きが、音響処理に介入するのがポイント。さすがに第一人者あざとさなど微塵も感じさせず、スマートで妙味のある動き、音響とのやり取りを大いに楽しむ。新しい要素に可能性を感じた。作曲家の表現の深化が今後の楽しみ。

庭園想楽第一回演奏会

2021年3月30日

日本福音ルーテル東京教会

ベートーヴェンの作品を、同時代の作曲家⇨フェティス、ルソー、アルブレヒツベルガーの作品の中に置いて聴いてみるコンサート。作品59・2でコンサートが終わった時、隣で聴いていた知人が「圧倒的で、他の作曲家が霞んでしまった」と。私も同感、でも、当時書かれていた「耳をつんざく」「奇抜」「袋に入った釘をぶちまけて・・・」等の悪評を思い出してもいたのだった。

尾池亜美、石上真由子、多井千洋、荒井結、石川星太郎の快演。

未来に受け継ぐピアノ音楽の実験コンサート

2021年1月17、23、24日 両国

門天ホール

私が関わっているプロジェクト中で、ピアノニスト井上郷子と共にプロデュースしたコンサート。「拡張ピアノ奏法を使う」と

いう条件で委嘱した、21人の作曲家による21曲の新作を4人のピアニストによって3日間で初演。拡張ピアノ奏法という古くからあるテーマだが、すでに自分の中にあるそれへの解答を、改めて頭と耳をもって再検討し得た人の作品こそ新鮮だった。

金ヨハン：a embodied = piano= for 1

piano and 3 voices 演奏/井上郷子、篠田昌伸、

樽谷静香

ピアノを囲んで三人の奏者。一人が鍵盤を奏し、二人が掌で弦をミュート、同時に三人はハミングで歌う。鍵盤を弾くが、他人にミュートされる、ミュートするが他人が打鍵した音のみが鳴る、並行して関係の不明なハミングが歌われる。身体と楽器、音響の関係性は複雑で不明瞭、そしてそのアンサンブルと立ち昇る響きは美しくチャイミングでユーモアすら感じさせる。新鮮な批評性と手法と結果。最近めったに出合えないもの。

渋谷由香：Found Overtone 演奏/井上郷子
倍音を強調する場所をゴムとぬいぐるみでミュート。複雑な倍音、平均律から微妙に外れるピッチ、作曲者が自分の耳で誠実に綴った響き、蜃気楼のように揺らぐ三和音、繊細で毀れそうなほどに美しい。

伊藤祐二：エコーの森 演奏/井上郷子

拙作。奏者が演奏を始める、途中よりアシスタントがフェルトの楔を弦に差し込んでゆく。すると、三つのスピーカーから、あらかじめ録音されたピアノの音が様々な空間定位で鳴り始める。(音はどこにあるのか?) 奏者が演奏を終えて立ち去る。音は空間に残っている。奏者が戻り、鍵盤の蓋を閉めると音は消える。奏者が立ち去る。ピアノがひとりでに(孤独に)二度、鳴る。

(オンライン公開予定。その時はお知らせします。)